

A randomised controlled trial of a code-word enuresis alarm

Patrina H Y Caldwell

Arch Dis Child. 2016 Apr;101(4):326-31.

目的：遺尿症を治療するための新しいコードワードアラームと市販のワイヤレスアラームと比較した。

コードワードアラームは、ワイヤレスウェットセンサー（子供のパンツの内側に装着されたパッドに固定）と、子供のベッドの横にあるアラームボックス（親が子供用にカスタマイズされたコードワードを録音するためのデジタルボイスレコーダーを含む）で構成されていた。夜尿があると、センサーが湿気を検知し、アラームが鳴る。子供が目を覚ましてアラームを消すと、事前に録音されたコードワードがアナウンスされ、子供は両親からトイレで目を覚まして排尿するように促されます。このコードワードは毎日変更されました。

結果：主な結果：16週間までに治療が完全に成功した（14日連続して夜尿がなかった）割合。副次的結果：夜尿頻度の変化、アラームトレーニングの期間、子供が夜尿のためにアラームで目覚めた日の割合、治療の順守、有害事象、および治療の満足度。

結果：353人の参加者のうち、176人がコードワードアラームに割り当てられ、177人がコントロールに割り当てられた。16週間で、実験群の54%（95%CI 47%-61%）および対照群の47%（95%CI 40%-55%）が実験を遵守達成し（ $p = 0.22$ ）、それぞれ74%と66%で、夜尿頻度が50%以上減少した（ $p = 0.14$ ）。実験群は対照群よりも頻繁に目覚め（覚醒率の中央値88%対77%、 $p = 0.003$ ）、夜尿の減少が大きかった（2週間あたり10対9夜尿減少の中央値）。完全奏効を達成する前に治療を中止した実験群はコントロールより少なかった（27%対37%中止、 $p = 0.04$ ）。2つのアラーム間で、6か月後の再発率、有害事象、または満足度に有意差はなかった。

結論：コードワードアラームは目覚めを増加させたが、2つのアラーム間で成功率の違いは示されなかった。

この論文はオーストラリアからの論文ですので、このアラームは手に入りません。またこれは実験的に作られたものです。しかしこの論文では夜尿症がなかった翌

日に褒めるだけでなく、ブザーを消した時にも褒めるとより治療の意欲が高まり、治療を行いやすくなることが示されています。